

《特集》

ブロック研究会活動報告



60年6月に誕生・発足したブロック研究会は1年半あまりが経過、研究会を軌道にのせるための活動準備期間の2年間もいよいよ終盤を迎えている。

2年目に入った本年度は、初年度である60年度の成果をふまえて、活動を促進するためにブロック研究会の会員一人当たりの学会補助金を前年度の3倍にアップするなどその活動に大きな期待が寄せられている。

本号は、各ブロックから本年度のこれまでの活動状況をご報告いただき、特集とした。各ブロックとも前年度に増して「研究会の開催」や「会報の発刊」など活発な活動を繰り広げ、着実に成果をあげてきている。

北海道ブロック

- リーダー / 浅川修二 北海道武蔵女子短期大学
- サブリーダー / 白川智洋 静修短期大学
- 運営委員 / 大賀 淳 北海道武蔵女子短期大学
丹治和典 静修短期大学
能登洋子 札幌大学女子短期大学部
和野内崇弘 静修短期大学

状況報告 研究会の運営について
開催時期：7月、11月、4月
各会員への広報活動については会報発行を含めて当分の間行わない。
実務界との連携については、実態の把握をしたうえで更に検討する。

研究発表
(1)コンピュータによる文章要約の一技法
乳井克憲 (静修短期大学)
(2)秘書としての適性把握に関する基礎的研究(2)
丹治和典 (静修短期大学)
(司会：能登洋子、札幌大学女子短期大学部)
開会挨拶 白川智洋 (サブリーダー：静修短期大学)

開会挨拶 浅川修二 (リーダー：北海道武蔵女子短期大学)
開催校代表 和野内崇弘 (静修学園理事長)
挨拶
研究発表
(1)文字情報処理をとりいれた表現技法
乳井克憲 (静修短期大学)
(2)秘書の資質に関する研究
浅川修二 (北海道武蔵女子短期大学)
(3)「対人関係に関する意識調査」に基づく接遇教育のあり方
松原智津子 (静修短期大学)
(司会：矢田貝紀雄、北海道文理短期大学)
開会挨拶 白川智洋 (サブリーダー：静修短期大学)

昭和61年度 北海道ブロック研究会活動報告

1. 運営委員会

第3回 4月26日(土) 12:00~13:00

第4回 11月29日(土) 12:00~13:00

場所：静修短期大学

内容：(1)会報の発行について

今回の研究会の概要を会報を通して会員各位に案内する。

以後、定期的に発行予定。

(2)今後の研究会開催予定について

次回：4月下旬、於静修短期大学、公開講演会を含む。原則として、4月・11月の年2回とする。

2. 第2回北海道ブロック研究会

日時 昭和61年4月26日(土)13:30~16:00

会場 静修短期大学

出席者 15名

〔プログラム〕

開会挨拶 浅川修二 (リーダー：北海道武蔵女子短期大学)

3. 第3回北海道ブロック研究会

日時 昭和61年11月29日(土)13:30~16:00

会場 静修短期大学

出席者 20名

〔プログラム〕



(丹治和典 記)

関東・東北ブロック

- リーダー / 高月東一 東京工芸大学女子短期大学部
- サブリーダー / 森脇道子 産業能率短期大学
- 運営委員 / 天野恒男 産業能率短期大学
 大宮 登 山形女子短期大学
 木下雪江 共栄学園短期大学
 佐藤啓子 常磐学園短期大学
 白井 勇 専門学校中野スクール・オブ・ビジネス
 高井由嘉雄 学校法人川口学園
 中佐古 勇 東京家政学院短期大学
 西谷正弘 専門学校東京スクール・オブ・ビジネス
 藤田利久 福島女子短期大学
 堀江 光 城西大学女子短期大学部
 溝口知子 東京工芸大学女子短期大学部

ブロック研究会活動も一年間の準備期間を終え、2年目の61年度は活動第一歩の年となった。この2年目は、会員各位の研究会設置趣旨に対する理解の一層の深まりと、その結果としての積極的な参加と協力で、固まりつつあった研究会活動の基礎固めもほぼ一段落、将来におけるより活発な活動への展望を開いた年でもあった。

第1回研究会が、昭和60年10月26日に産業能率短期大学を会場に開催されて以後、昭和61年

の活動状況は次の通りである。

研究会活動

第2回研究会

月 日 昭和61年3月29日(日)

場 所 東京スクール・オブ・ビジネス

テーマ 「秘書教育の方法を求めて」

当日はビデオ教材「セクレタリーストーリー」を佐藤啓子先生による教室での利用の方法についてなどの解説を交えての上映の後、今回のテーマに基づき、堀江光先生(城西大学女子短期大学部)の司会により、発表と討議に移った。

まず、理論部門で大宮登先生(山形女子短期大学)から「秘書パーソナリティー論—その理論と教育方法の検討」と題して、理論に基づく指導の展開について実践例を挙げての発表が行われた。

つづいて、実務部門で矢沢園子先生(津田スクール・オブ・ビジネス)から「津田スクール・オブ・ビジネスにおける電話実習—本下カードを使って」と題して、教授法の実践を学生をモデルに再現しながら発表がなされた。

この二つの発表に基づき、グループ討議ならびに意見交換が時間を忘れて熱心に行われた。

第3回研究会

月 日 昭和61年10月4日(日)

場 所 福島女子短期大学

今回は東京を離れ、関東・東北ブロック研究会の名の通り、東北(福島市)で開催された。

最初に、第1回研究会の産業能率大学教授の安本美典先生に続き、今回は、福島県知事政務

秘書の渡邊五郎三郎先生に「秘書に求められる人間像」と題して、議員秘書歴35年の経験を東洋学の立場から裏付けした講演を願った。

続いて研究発表に移り、従前より希望のあった質疑ならびに討議の時間をなるべく長く持ちたいとの考えから、初の試みとして発表を希望に合せた分科会単位で行った。しかし、熱気を帯びた討議、意見交換は予定の時間を過ぎても尽きることはなかった。

当日の発表は、第一分科会が奥野充子先生(淑徳保育生活文化専門学校)で、「秘書と会議—コミュニケーションとしての役割—」と題して、会議における秘書の役割を学生に理解させる教授法についての実践報告がされた。

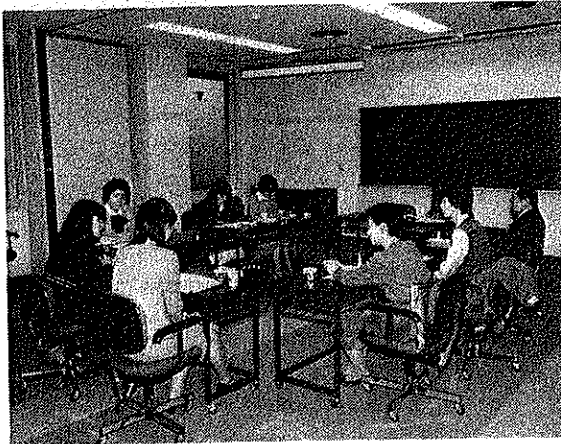
第二分科会では、山口哲子先生(福島女子短期大学)から「秘書の個人史・誌の集積」と題しての秘書研究における個人の経験の記録と蒐集の必要性についての発表があった。

第三分科会においては、佐藤東九男先生(東京工芸大学女子短期大学部)により「秘書科における情報(処理)教育」と題して、秘書科における情報(処理)教育を具体化するアプローチについての研究発表と提言がなされた。

さらに、今回は遠路、紅葉の季節、観光地といった条件が整った結果、飯坂温泉に一泊しての懇親会、りんご狩りを含んだ一日バス観光旅行つきであった。

第4回研究会は昭和62年3月28日(日)に早稲田速記学校を会場に開催される予定である。

(藤田利久 記)



中部(東海・北陸)ブロック

<東海地区>

- リーダー / 横山静祺 市邨学園短期大学

- 運営委員 / 伊藤和子 市邨学園短期大学
 奥 喜久男 東邦学園短期大学
 河村真澄 名古屋短期大学
 島本みどり 東邦学園短期大学
 水野清子 岡崎女子短期大学

<北陸地区>

- サブリーダー / 吉田寛治 金沢女子短期大学

- 運営委員 / 岡野綱枝 富山経済専門学校
 奥村真澄 仁愛女子短期大学
 北潟克輔 金城短期大学
 水谷内徹也 星稜女子短期大学

中部ブロック報告

本ブロックは地理的に北陸地区と東海地区に分かれている。したがって、それぞれ運営委員会をもち、相互に連絡しつつ中部ブロックの運営をすることになっている。次に各地区別に5月以後の活動を報告する。

1. 東海地区部会

5月17日 運営委員会実施

61年度の活動計画について話し合う。その結果東海地区の企業内の秘書の実態と秘書教育に対する企業の要望等の調査が問題となる。実施は8月～9月の間に調査し、集計は10月末を目標とすることにした。次期会合は9月27日とする。

9月27日 リーダーの都合により中止

10月18日 リーダー、サブリーダー、奥運委員の三者が、愛知会館に於て会合し、中部ブロックの運営について相談する。(1)東海と北陸は、当分の間別々に研究会をもち、年1回程度の合同研究会をもつ。(2)その場合の旅費補助が必要ではないか。(3)部会員の研究発表と親睦の場として「中部ブロック会報」を発行する。編集は、横山、奥、伊藤の3人が担当する。(4)62年度大会には、当ブロックより発表者を推薦する。

以上の件については東海地区運営委員各位の了解を得た。

62年

1月10日 研究会の予定

研究発表者は河村、島本の2氏に決定。

12月10日研究会の通知を出す。

2. 北陸地区部会

- 5月24日 金城高校会議室にて研究会実施
- 10月18日 研究会実施予定であったが、三者会談のため中止
- 吉田サブリーダー愛知会館の会合に出席。
- 12月6日 金沢ニューグランドホテルにて

運営委員会を開催。名古屋の三者会談の報告をし、研究会を1月24日金沢兼六荘にて行うことを決定。テーマは「企業が求める秘書」とし外部講師による講演と座談会とする。

62年
1月24日 研究会実施予定

以上が本年度現在までの活動である。61年下期になって活動が集中してきたのはリーダーの責任であった。しかも東海地区での統計調査が中止の状態であるのは残念である。是非将来実現したいと思っている。

(横山静祺 記)

近畿ブロック

- リーダー / 田中篤子 松蔭女子学院短期大学
- サブリーダー/福永弘之 兵庫県立姫路短期大学

- 運営委員/荊木淳己 京都短期大学
宇都宮垂穂 園田学園女子短期大学
緒方真澄 平安女学院短期大学
藤原一郎 大阪成蹊女子短期大学
矢野智恵子 京都経営管理専門学校

●小林薫氏講演会 (10月18日(土)午後3時から大阪科学技術センター)

本来は、日本秘書協会関西支部の講演会でしたが、滅多にない機会なので、運営委員会にはかって、日本秘書学会近畿ブロックの会員の方にも門戸を開放してもらいました。演題は、「アメリカン・マネージメントの変貌と秘書職の現況」という題目でした。

内容は、I. アメリカの秘書の動向、II. 日本の秘書をめぐるビジネス環境 (①国際化②情報化③平等化の3点を中心に)、III. マネージメントについて (とりわけリーダーシップを中心に) 小林先生の該博な知識に参加者一同魅了されてしまいました。特に参考になったのは、ア

メリカの秘書についての解説で「Not Just A Secretary」「The New Secretary」「The Secretary Handbook for the Modern Office」「The Professional Secretary at Work」「Breaking the Secretary Barrier」「Today's Woman Supervisor」「Managerial Technique for Secretaries」など、用意されたコピーで、内容の概要をうかがい、参加者一同大いに満足して帰路につくことが出来ました。

●日本秘書学会近畿ブロック研究会 (11月8日(土)午後1時から、大阪市「コクヨ」本社)
今回は「コクヨ」株式会社のご好意によって、会場をご提供いただき、見学を含めての研究会になりました。

はじめに、田中篤子ブロック代表のあいさつ、活動報告、続いて、福永弘之ブロック副代表による昨年度の決算報告、更には緒方真澄運営委員による監査報告が行われました。

次いで、研究会にうつり、今回のテーマ、「文書管理教育の充実」に沿って、コクヨ株式会社システム研究室の池田宏課長による講演「ファイリング・システムの現状」が行われました。従来のファイリング・システムがボックス・ファイルの出現によって、大きく変わっていることがはっきり認識できました。講演の後、コクヨの事務室を見学させて頂きました。超近代的なオフィスで、コンピュータが2人に1台の割

に配置されており、どこにもさげざるもののないオープンオフィスで、空間には、ボックス・ファイルが整然と置かれていて、さすがコクヨのオフィスといった親を深くしました。ただ単に講演をうかがっただけでは判りにくいところが、現場を見学して十分理解がいったようで、コーヒーブレイクにも食い込む程、皆さん熱心に見て回られました。

休む暇もなく、研究発表に移り、PL学園女子短期大学の仁平征次先生の「ファイリング原則の検討」の発表、次いで関西で唯一の秘書科をもつブール学院短期大学永井千代子先生の「ブール学院短大秘書科の現況」最後に姫路短期大学福永弘之の「昭和15年発行、望月清次著『秘書生活・花心風流』について」の発表があり、4時すぎ、田中ブロック代表のあいさつで閉会しました。引き続き、希望者には、コクヨのショールームを見学させて頂くという機会に恵まれました。参加者一同オフィスの最先端の現状及びファイリングの実態を目のあたりにすることができ更にボックス・ファイリングのセットをおみやげに頂き相当な収穫を得て帰ることが出来ました。休休日にもかかわらず、会場の提供、更に講演、見学と便宜をはかって頂いたコクヨの方々に紙上より厚くお礼申し上げます。

(福永弘之 記)



中国・四国ブロック

- リーダー / 清水慶秀 広島女学院大学
- サブリーダー/森貞俊二 松山東雲短期大学

- 運営委員/岡田 繁 川崎医療短期大学
胡 義博 鈴峯女子短期大学
佐藤正則 徳島文理大学
三宅耕三 上戸学園女子短期大学

中国・四国ブロック研究会報告

日本秘書学会が開催された6月19日、私学会館で運営委員会(昨年度と同じメンバー)を持ち、11月22日、松山で第3回の中国・四国ブロック研究会を開催することを決定した。

7月28日に会員各位にハガキでこの日程を予告し、9月25日に研究発表申込み要領等の案内状を発送した。そして、予定通り11月22日(土)、松山市道後の「にぎたつ会館」(1987年第6回日本秘書学会の会場予定地)で、別記のプログラムにより研究会が開催されたのである。

全会員57名中、30名の会員の出席があり、13:00から16:00まで6名のかたがたの発表を中心に熱のこもった討議が行われた。また参加者の大学間で、個人相互間でさまざまな情報の交換がなされ、有意義な3時間の会合であった。

終了後、ロビーで運営委員会が持たれ、1987年度は岡山地区で、川崎医療短大の先生方の企画による研究会開催を申し合わせ、解散した。

今回の研究会開催に関し、案内状発送、会場設定・設営等と多くの時間とエネルギーを割愛

して下さった「松山東雲短大秘書科」の先生方に心から謝意を表し、感謝をさげたい。

(別記)

中国・四国ブロック研究会
第3回大会プログラム

13:00~ 開会の挨拶
ブロック運営委員長 清水慶秀(広島女学院大学)
研究発表I (司会)佐伯三麻子(松山東雲短期大学)

- (1)13:10~ 秘書は専門職であるか 柴山 正(広島女子商業高等学校)
- (2)13:35~ 会計検査院院長秘書官の職能に関する一考察 林 雄太郎(広島女学院大学短期大学部)
- (3)14:00~ デビッド・ヒュームの秘書時代 藤田雅子(岡山女子短期大学)

休憩(14:25~14:45)

研究発表II (司会)青野篤子(松山東雲短期大学)

(4)14:45~ キャリアー女性増加にともなう消費の動向
三宅耕三(上戸学園女子短期大学)

(5)15:10~ 「国語表現法」カリキュラム 試案
——「話し・聞く」分野について——

村上幸子(広島女学院大学短期大学部)

(6)15:35~ 秘書教育に関する企業実態調査(II)

采女節子・森貞俊二

佐伯三麻子・青野篤子

桐木陽子・藤原基代美

◎渡辺和枝(松山東雲短期大学)

16:00~ 閉会の挨拶

ブロック運営委員 胡 義博(鈴峯女子短期大学)

(清水慶秀 記)



九州・沖縄ブロック

●リーダー / 井下謙次郎 鹿児島女子短期大学

●サブリーダー / 内藤郁世 佐藤ビジネス専門学校

九州・沖縄ブロック研究会は、第5回大会に先立ち、6月14日午後5時から、福岡市の佐藤ビジネス専門学校で、第3回(通算)研究会を開いた。参加者は福岡を中心に15名。まず、西日本新聞社秘書部長千住方氏から「秘書現場からみた秘書教育について」の問題提起があり、引き続きブロック研究会の活動について、自由な意見交換が行なわれた。とくに福岡市以外での研究会開催、会員の研究活動の掘り起こし等について討議された。今回はとくにテーマは定めなかったが、久方ぶりの会合でもあり、会員相互の親睦を深めた。

第4回研究会は10月25日午後1時から福岡市近郊太宰府の福岡女子短期大学で開かれた。同校は秘書教育に多大の功績を残され、さる8月27日に急逝された福田節生先生の在職されたところ。今回は長崎、宮崎、鹿児島等九州各地からも多数の参加をみて、約40名。故福田先生のご冥福を祈った。当日のスケジュールはつぎのとおり。

- 1) 伊藤福岡女子短大校長あいさつ
- 2) 「福田節生先生を偲んで」鹿児島女子短大 井下謙次郎
- 3) 西日本新聞社秘書部長千住方氏の話
- 4) 秘書概論についての一試論 近畿大学女子短大 佐藤昭雄
- 5) 福岡女子短期大学秘書科カリキュラムについて 福岡女子短大 田中友幸
- 6) 施設見学
- 7) 懇親会

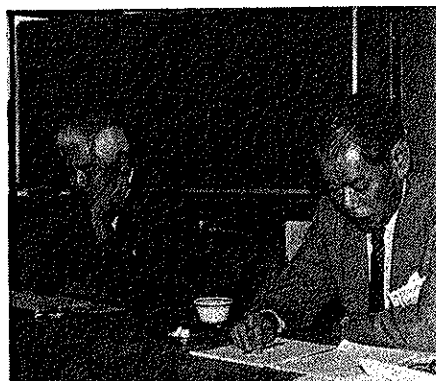
この中で、西日本新聞社秘書部長千住方氏は前回に続いて「現在、企業の最大の課題は職場の活性化である。秘書部門においても、成員が生き生きとして働ける楽しい、面白い職場を目指している。秘書教育もアイデンティティを持って面白い、楽しい教育であるべきではないか」と示唆に富む指摘があった。

ついで近畿大学女子短大佐藤昭雄氏から前記のテーマについて詳細な報告が行われた。秘書教育における理論的分野である秘書概論については、各参加者にとっても、もっとも関心の深いところでもあり、同氏のユニークなプログラム展開について、活発な質疑が続出、予定時間を大幅に超過する始末であった。同報告は、同氏の豊富な企業内教育の経験をも取り入れた斬新な内容であり、大いに参考になるものと思われる。

福岡女子短大の秘書科カリキュラムについても、同校秘書科は今年4月開設されたばかりであり、もっとも新しい内容が盛りこまれたものだけに、参加者の多大の関心をひいた。

第4回会合は予想以上に非常な盛況であった。ようやく2年目を迎えたブロック研究会が今後どのような発展をみせるか、楽しみな会合であった。

(井下謙次郎 記)



訃報



故 福田節生先生

本学会常任理事及び編集委員長の福田節生先生(福岡女子短期大学教授)が、昨年8月27日ご病氣のためご急逝されました。先生の本学会発足にあたってのご尽力、また学会活動におけるご指導やご活躍を思うとき、かけがえのない方を失ったことが惜しまれてなりません。心からご冥福をお祈りいたします。

新編集委員長について

前委員長福田節生先生のご急逝にともない理事会において、後任委員長に横山静雄先生が選任されました。

第6回全国大会のご案内

日本秘書学会第6回総会並びに全国大会の会場及び概略日程が下記のとおり決定しました。現在本大会での研究発表を募集中です。秘書学及び秘書教育に関するものでテーマは自由です。応募の締切りは昭和62年3月12日(休)です。応募要領の詳細案内は、会員にはすでに送付済みです。お問い合わせは学会事務局まで。

なお、詳細な「大会プログラム」及び「参

加要領」は、5月上旬までに大会委員会(委員長:松山東雲短期大学教授 石丸 正、事務局:松山東雲短期大学)からご案内いたします。

《第6回全国大会 概略日程》

●大会期日/昭和62年6月18(日)・19(日)の2日間

●会 場/にきたつ会館
松山市道後姫塚118番2 Tel0899-41-3939

●概略日程/
6月18(日)
9:30~17:00 総会・講演・研究発表
17:00~18:00 懇親会
6月19(日)
9:30~14:20 テーマ別研究会
(シンポジウム)